

藍住町海外派遣事業を終えて



藍住東中学校 松浦 和也

7月20日から29日までの10日間の海外派遣事業を終え、まずは今回の事業を発案して下さった高橋町長様をはじめ、藍住町関係者の方々、藍住町教育委員会の方々には深くお礼申しあげたい。第一回目の海外派遣ということで、何もかもが手探りの状態であったにもかかわらず、青木教育長様のお言葉にもあったように「未来の藍住町を支える人材を育成するために」きめ細かな活動計画を立ててくださり、たいへん感謝している。以下に本事業で生徒がどのようなことを学び、成長したかを簡単に述べたい。

まず、生徒はオーストラリアに到着後、シドニー周辺を観光し、さまざまな建造物などを見学し、異文化について理解を深めた。

次にホームステイ先に移動し、そこから近隣の小学校や、受け入れ先の中学校へ通うようになった。受け入れ先での英語の語学研修は、耳で聞いて話すプログラムが多く、思うように学習を進められない生徒が多く見られた。しかし、日を重ねるごとに生徒は担当の先生の質問や、冗談を聞き取れるようになり、生徒の中には先生の間違いを指摘できるようになった者もいた。こうして耳が徐々に鍛えられてきた生徒は、話すことはできないが、相手が言っていることはおよそ分かるようになっていった。そして、同年代の現地の中学生と会話を楽しむ様子が多く見られるようになった。会話を進めながら、生徒は会話に必要なものは、相手が何を言おうとしているのかなんとか分かろうとする姿勢、自分の思いを伝えようとする気持ちなのだということを身をもって理解しているようであった。英語の学習を何年も積み重ねながら、英語が話せない日本人。英語教育が改めて見直されている昨今、生徒はこの研修で英会話において大切なものを現地で見つけることができたように思う。

最後に、生徒は約100名の受け入れ先の中学生を前に日本文化紹介のプレゼンテーションを一人ひとり行った。拙い英語ではあったが、これまで学んだことを生かし、精一杯自分の気持ちを伝えようとする生徒の思いが、現地の中学生にも伝わり、発表会はすばらしいものとなった。発表会后、多くの現地生徒が発表した生徒に駆け寄り、写真を撮ったり、質問をしたりする姿が見られた。生徒自身大きな自信になったと思われる。

最後になったが、このプレゼンテーションの制作にあたっては、ALTのエダ先生にたいへんお世話になった。また、現地の学校では、語学研修を行ってくれたリチャード先生、学期はじめのたいへんなときに丁寧に対応して下さったルーク先生、その他、現地でお世話になった全ての方々に改めてお礼申しあげたい。

この事業が今後ますます充実したものになることを心よりお祈り申しあげる。

